

ワークショップ「宇都宮」

■日時：2012年3月24日(土) 13時30分～17時

■場所：宇都宮大学教育学部附属中学校
参加人数 24名

【プログラム】

13:30～13:35 開会挨拶

13:35～15:00 講演:歴史から経済を読み解く（江戸の歴史から解き明かす）
（同志社大学経済学部 篠原総一）

15:10～16:10 教材提案：「住宅メーカー 職場シミュレーション」
（東京都目黒区立目黒中央中学校 三枝利多）

16:10～16:55 討論：ゲーム教材の使い方
（弘前大学教育学部 猪瀬武則）

【ワークショップ概要】

初めに、篠原代表が、「歴史から経済を読み解く（江戸の歴史から解き明かす）」と題して講演。中学校社会科歴史的分野の江戸時代の三大改革を中心に、経済的意味、その経済的見方を展開された。田沼の政治についてはケインズ政策として再評価されているため、旧来の腐敗した政策という見方は払拭されつつある一方で、荻原重秀の500万両の出目による財政改革が十分に評価されていない。以後の三大改革は、経済政策としてはいずれも誤ったものばかり。一方、薩摩藩の調所広郷による改革は、250万両の蓄えを作り、維新戦争の要になっていく。歴史から経済学、経済政策のエッセンスを盛り込んだストーリーは作りやすい。活用したいものである。

後半は、三枝教諭の「中学校における金融・経済授業の進め方」であり、これまでの経験に基づく日常的な中学校社会科公民的分野の授業展開事例と「住宅メーカー 職場シミュレーション」の導入部分の模擬授業を、参加者対象に展開された。具体的には、「無人島漂着シミュレーション」であり、漂着してから、なにをどうするかを提案をグループごとに話し合わせ提案させた。特に、漂着後、どうするか。続いて、新たな住人の発見から、(1)漁業が出来る住民との遭遇、(2)パパイアが採れる住民との遭遇、(3)言葉の壁はあるが友好的な島民との遭遇、への対応を参加者から提起して頂いた。ユニークな提案が、数多く出されたが、最終的には交換・分業・交易の確認をすることが重要で基本的には、それらをまとめることがなされた。時間の制約上、「職場シミュレーション」の展開を説明した。

最後に、猪瀬が、「ゲーム教材の使い方」として、実施上の課題を参加者と共に討論して、終了した。

（文責：猪瀬武則）